

スタディツアー報告会の実施 ～ 指定募金先：東ティモールの赤ちゃんとお母さんのケア

1月30日、フォレスト仙台においてみやぎ生協の報告会が実施され、52名が参加しました。報告を行ったのは、昨年9月にスタディツアーに参加した松木弥恵理事。参加報告の前に、開発途上国の状況を知るために、ユニセフ学習ビデオ「ユニセフと地球のともだち」を視聴しました。途上国の現状とユニセフの支援活動を簡潔にまとめたビデオです。東ティモールのスタディツアーが実施されたのは、みやぎ生協はじめ東北と九州の生協が「新生児と母親のためのコミュニティ保健ケアの改善プロジェクト」の指定募金を行っているためです。プロジェクト開始前の2014年に現状視察を行い、今回は3年経過しての状況を視察しました。東ティモールの赤ちゃん子どもたちの状況、保健ボランティアさんの活躍と妊婦さんたちの意識の変化など、私たちの募金の人々への支援や国の発展に役立っていることを実感することができました。ユニセフの地道な活動を支えるのは私たちの募金です。松木理



報告する松木理事（左） 現地の衣装の ninatonya さん（中） 会場の様子（右）

事が現地で購入した小物～ペンケースや財布などへの販売を行い、売上4,500円がユニセフに募金されました。



出前授業・・・内容や時間のご相談に応じて

小中学校などからの依頼により、ユニセフ学習会を開催しています。1月～2月は、仙台白百合学園中学校（3年生82名）、聖ドミニコ学院中学校（3年生13名）、大崎市立東大崎小学校（全学年102名）、ほかにみやぎ生協多賀城店こ～び委員会（大人30名）で実施しました。スクリーンに写真や映像などを映し、世界の子どもの様子やユニセフの支援の様子などをお知らせしています。体験できるものも用意します。低学年向けにはおもに写真パネルを使ってお話することもあります。（鳩とオリーブ、ユニセフ・ロゴ、母と子）



ユニセフ募金応援キャンペーン(みやぎ生協店舗)

みやぎ生協では20年にわたり、お取引先様のご協力により全店舗で実施してきました。対象商品の売上に応じて一定額がユニセフに募金されます。世界中の子どもたちが笑顔になりますように。2月1日から28日まで4週間実施中です。



河北新報社寄託金贈呈式

1月23日、河北新報社にて河北新報社に市民や企業・団体、学校などから寄せられた善意の寄託金の贈呈を受けました。宮城県社会福祉協議会、仙台いのちの電話、ユニセフ協会の3団体でした。ありがとうございます。



2月15日～16日、日本ユニセフ協会全国協定地域組織事務局局長会議が東京の日本ユニセフ協会で開催され、全国26の道府県協会から事務局長が集合しました。2017年度の活動報告と2018年度の活動方針など、共有化が図られました。

昨年度から学校での募金活動に対し、『We Support UNICEF 賞』～賞状と記念のステッカー～が活用されており、宮城県の小中学校からの申し込みも多いようです。今後も広くお知らせしていきたいと思ひます。

